

令和7年度 加古川中学校 学校自己評価

1 学校教育目標 自分で考え行動する-自律・創造・尊重- ~笑顔あふれる学校 Smart Tough Heartful ~

2 本年度努力目標
 (1) School Project(Smart ,SDGs) の推進
 (2) 命を尊び、自他を大切に、いじめを許さない、豊かな人権意識をもつ生徒の育成
 (3) 生徒の学力向上を図るための学習指導の工夫・改善 (ICT活用、スマート探究学習等)
 (4) 学校運営協議会及び加古川ユニット教育推進協議会による地域とともにある学校の充実
 (5) 学校組織力及び教職員の資質能力の向上

3 自己評価と改善の方策

評価基準				
A:できている	B:だいたいできている	C:あまりできていない	D:できていない	E:わからない
努力項目	評価項目(具体的な実践目標)	達成状況	改善の方策	
(1)「確かな学力」の育成	進んで学習に取り組む	B	ICTを効果的に活用し、個に応じた学習支援を充実させる。デジタルでの振り返りを通して学びの成果を可視化し、家庭と連携して自律的な学習習慣の定着を促す。	
	基礎基本の定着	A	AIドリル等の活用を継続し、個々のつまずきに応じた丁寧な学び直しを徹底する。小テストや振り返り活動を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。	
	授業改善の工夫	A	AIやデジタルツールで理解度を即時に把握し、個々の考えを比較・共有する納得感ある授業を推進する。公開授業の相互参観や研修を通じ、組織的な授業改善を断行する。	
	思考力・判断力・表現力等の育成(スマート探究学習・協働学習)	B	ICTを情報の整理や分析に活用し、正解のない課題に挑む探究学習を推進する。仲間と協力して答えを見出すプロセスを大切に、筋道を立てて考え、伝える力を総合的に育てる。	
(2)「健やかな体」の育成	校舎内外の環境整備	A	破損・危険箇所の点検を定期的に行い、修繕や補修などを優先順位を決めて計画的に行い、安全安心な学校づくりに努める。また、生徒自らが身の回りの環境を整えられるよう指導をする。	
	健康・安全を大切にする学校づくり	A	養護教諭と担任の連携を深め、ICTデータから心身の異変を早期に把握・対応する。保健日より等で情報を適時発信し、家庭と協力して健康意識を高め、自らの安全を判断し行動できる自律した生徒を育成する。	
	適正な部活指導	A	ガイドラインに基づき、体力や技術の向上を図るだけでなく、生徒の人権や人格を尊重した指導や自主性を尊重した指導を心がける。	
(3)「豊かな心」の育成	あいさつ・会釈を励行する	A	相手を尊重する姿勢として、登校時や授業前後でのあいさつ・会釈を日常化させる。教職員が率先して範を示すとともに、全校で温かな人間関係を築く機運を醸成する。	
	清掃や片付け	B	清掃活動を通じて公共心を養い、自身の環境を整える「自律」の姿勢を育てる。端末や学用品の整理整頓を徹底させ、次に使う人や明日の自分を思いやる意識を、日常生活のあらゆる場面で指導・定着させる。	
	道徳心・人権意識の高揚	A	職員研修を通じて教職員の人権感覚を磨き、全教育活動で自他を大切にすることを育てる。道徳の時間を核としつつ、日常の交流の中で互いの良さを認め合える温かな人間関係を構築する。	
	居心地の良い学級・学校づくり	A	定期的なアンケートや対話を通じて生徒の小さな変化を捉え、迅速に組織で対応する。専門家(SC・SSW)とも密に連携し、一人ひとりが大切にされる安心・安全な環境を維持する。	
	生徒会活動の活性化	B	生徒の主体的な校則見直しや行事運営を全面的にバックアップします。「こころの絆」プロジェクトなど、生徒が自分たちの手で学校をより良くしようとする自治活動を一層推進する。	
(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	時間を守る	B	見通しを持って行動する力を養うため、自律的な時間管理の意識を高める指導を行う。学校生活全体で時間を意識する場面を設定し、社会で生きる基礎力を家庭と協力して育てる。	
	服装を正す	A	校則の趣旨を共有し、時と場に応じた適切な身だしなみを自ら選択できる力を養う。教職員が統一した視点で、生徒の自律心を尊重した丁寧な声掛けと指導を継続する。	
	いじめを絶対に許さない集団づくり	A	「いじめ防止基本方針」を全教職員で再確認し、些細な兆候も見逃さない積極的な認知と対応を徹底します。人権学習や生徒会活動を通じ、いじめを「しない・させない・許さない」空気を作ります。	
	教育相談の充実	A	カウンセリングマインドを持った対応を徹底し、内面理解に基づいた寄り添う指導を行う。不登校傾向の生徒に対しても、多様な学びの場を確保し、外部機関と緊密に連携する。	
	特別な支援が必要な生徒への対応	A	個別の指導計画を全教職員で共有し、統一した支援体制を構築する。ユニバーサルデザインの視点を取り入れたICT活用により、すべての生徒が学びやすい環境を整える。	
(5) 開かれた学校	学校行事等の工夫	B	行事の計画・運営段階からICT(共有ドキュメント等)を活用し、生徒の主体的なアイデアを反映させる工夫を行う。また、準備過程の効率化を図ることで、生徒・教職員ともにゆとりを持って本番に臨める体制を構築する。	
	情報発信	B	学校HPや連絡ツールを活用し、スマートスクールの進捗や生徒の活躍をタイムリーに発信する。教育活動を視覚的に「見える化」し、保護者や地域との信頼関係をさらに深める。	
(6) 特色ある取組	スマートスクール	B	スマートスクール推進の核となるICT活用スキルの向上を目指し、教職員間での実践事例の共有や研修を充実させる。先進的な取り組みを組織全体で平準化し、一部の教職員に負担が偏らない効率的な指導体制を構築する。	
	SDGsスクール	B	地域の課題をSDGsの視点で捉え、ICTを活用して情報を収集・分析する「スマート探究学習」を推進する。他者と協働して解決策を考えるプロセスを通じ、持続可能な社会に貢献しようとする資質・能力を育む。	
	勤務時間等の業務改善	C	校務でのICT・AI活用を徹底し、会議の精選や資料共有のデジタル化により業務を効率化する。確保した時間を生徒への個別支援や教材研究に充て、教育活動の質と持続可能性を向上させる。	